親しく正しく和かに
当山先々代三吉日照上人の提唱による当山スローガンです
揮毫＝大本山本興寺御開士大平日晋上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに広くお読みいただければ幸いです。

寺楽寿 てらす

No.56

令和６年３月１日発行

本覺山　妙壽寺〈法華宗（本門流）〉
〒157-0061　東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251　FAX.03-3308-7427
ホームページ　http://myojyuji.or.jp

リレーコラム No.12

追悼　早苗さん

旧臘12月31日、永らく総代を務められた早苗靖夫氏が逝去されました。

誠に多くのお気持ちをお寺と私共にかけて下さり感謝の念に堪えません。

お寺が困難な時に大きく支えて下さった早苗さん。昭和56年、先代妙恵上人（私の母堂）が重篤になった折は、本堂でお祈りされ山門を掃除されていたお姿がありました。つい先頃、大阪妙道寺高橋顕昭上人から、昭和30年4月、先々代日照上人の病状が重くなった折に、ご尊父早苗平兵衛（博行＝御総代）様が一心に本堂で祈願された姿が神々しかったと述懐されていました。

早苗さんは、先代妙恵上人時代には、お寺に集まる若い世代を取りまとめて下さりました。さらに旅行や食事会をして頂きました。先代遷化（逝去）後は、当時婦人会長であった加藤とくさんといつもご相談の上で若い住職である私を支えて下さいました。そこには、加藤さんは直接に、早苗さんはご両親から聞いた先々代日照上人との深い絆、これは、その当時の方々が抱く、上人への深い信頼と畏敬があったように思います（『追想 日照上人』をご参照下さい）。このことが、昭和新本堂再建の求心力になったと思います。

また、コロナ禍まで続いた役員婦人会有志による一泊の親睦旅行会、月例講正隆会の立ち上げ、開宗七五〇年記念事業永代供養墓正隆廟建設委員会と、常にお寺の活動には深く関わられ、共に知恵を出し合い、お寺を良い方向へと心を注いで頂きました。そして、何よりもお優しく慈しみ深くあられました。

当山では、二十余年前より、年間にご逝去される数十の方々に、お盆ご案内とは別に新盆ご案内を送付しております。そして、早苗さんのご尊父を新盆で送られた時のご文章を同封して送らせて頂いております。そこには、「大勢のお僧侶方、檀信徒方のお経、お題目に送られ、これで本当に天上に向かってきれいになって、父が旅立って行ったような気持ちを覚えております」と記されておられます。

代々の商家であられた早苗さんは平兵衛十二代目であり、代々が信士・信女の法号であり、これを守られることを矜持とされていました。

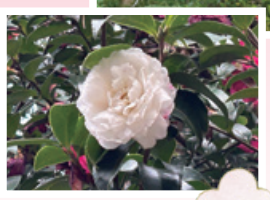
先々代日照上人が加藤とくさんに残された遺訓「親しく正しく和やかに」をそのままに清冽なご生涯を閉じられた早苗さん、誠に有難うございました。霊山浄土でご両親、親しい方々と邂逅されていることと思います。

積徳院慈敬日靖信士　妙法経力即身成仏　追善菩提

当住廣明

竹林と白梅

ウメ


ツバキ

ミモザ

春雪&春花

寺日記 てらにっき

●12月14日　中央義士会　於 高輪泉岳寺
12月21日　東京ブディストクラブチャリティ義援金贈呈　於 西麻布・ウクライナ大使館❶
●12月24日　煤払い大掃除・お焚き上げ法要❷❸
●12月31日　当山総代早苗靖夫氏逝去
1月9日当山にて通夜、10日葬儀（上段参照）。
●1月1日　元旦国祷会法要
●1月13日　沼津塔頭大本山光長寺南之坊先代浦邊諦善上人内室量子夫人逝去
翌14日佐々木明乗上人・当住弔問、19日初七日当住弔問、22日葬儀当住参列。
●1月13日　総代会・年頭会祈願法要、得度式・役員総会・新年会❹
●1月18日　烏山仏教会先師追悼会・総会　於 源良院
●1月23日　東京都仏教連合会監査会
●1月25日　東京教区新年会　於 浅草ビューホテル
桑港・日蓮教会　1月5日　日蓮教会理事　宮崎さおり女史来山
猿江・猿江別院　12月14日・2月1日　写経会
●1月27日　東京ブディストクラブ新年会　於 トラットリア庭
●1月29日　東京都宗教連盟理事会・新年会　於 明治記念館
●1月29日　大阪妙道寺高橋顕昭上人実弟瀬田石蕉氏逝去
●1月30日　日照上人五女三吉恵子三回忌　2月2日当住通夜執行。
佐々木明乗上人奉修。
●2月1日　全日本仏教会新年会　於 京都グランビア
●2月2日　北茨城成顕寺住職鈴木順隆上人御遷化
同7日弔問、16日葬儀参列
●2月3日　節分会法要
●2月14日　全仏理事会（オンライン）
●2月15日　東京都仏教連合会常任理事会　於 浅草ビューホテル

当住上人の 宗務院 DIARY

12/7,1/9,2/8　内局会議
12/27　宗務院御用納め
1/9　宗務院御用始め
2/5～9　第18回臨時教師養成講習会第3期閉講式　於 大本山本能寺
（❺左から谷口智隆師、山川妙佳師）
2/9　本山学林連絡会議
2/14　『無上道』編集会議　於 沼津
2/19　菩薩行研究所ブリーフケア勉強会　於 宗務院

俳句事始

師走（極月）・睦月

寒厳に伊勢晩秋の神楽歌
寒月に雅の姿舞楽見ん
山茶花の花びら散りて秋が逝く
老梅の枝に宿りし紅千鳥
お鏡の気槌使って霰餅
初釜の花びら餅の一牛蒡
寒中の風に向いて修行僧
寒風の止みて梟（ふくろう）鳴くを聞く

鴉鵠

法要のご案内 （別紙参照）

コロナウイルス感染の拡大防止のため、感染対策を十分に行い奉修いたします。

３月20日（水・祭　春分の日）
春季彼岸中日法要
初座：午前 11 時　第二座：午後２時　動物諸霊法要：正午

５月２日（木）
猿江稲荷大祭法要　午前 11 時　猿江別院

７月16日（火）
孟蘭盆会施餓鬼法要
新盂蘭盆会法要（新盆）午前 11 時孟蘭盆会法要
午後２時　動物諸霊法要：正午

９月22日（日）
秋季彼岸会中日法要
初座：午前 11 時　第二座：午後２時
動物諸霊法要：正午

11月３日（日）
宗祖日蓮聖人第743遠御忌御会式

猿江別院御写経会

4月4日(木)　6月13日(木)　8月8日(木)　10月3日(木)
※毎回、木曜日 13時～19時　参加費：500円

新規墓所 ご案内

３尺×４尺＝６基
３尺×３尺＝６基
２尺×２尺＝８基
詳細は当山までお問い合わせください。

正隆会 【SHORYU-kai】

月例講ご案内

午後２時開催

当山では、毎月第２土曜日午後２時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回１時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため離隔距離をとり、実施いたします。

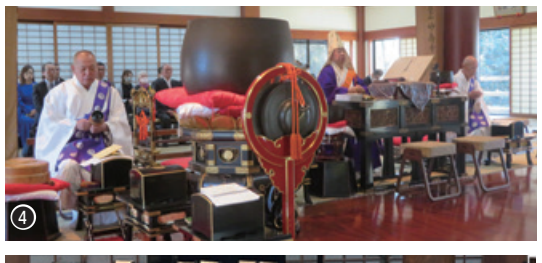
３月　９日（土）	勉強会「法華経への誘い」拝読７
４月 13日（土）	勉強会「法華経への誘い」拝読８
５月　２日（木）	猿江春季大祭　午前11時猿江別院
６月　８日（土）	勉強会「法華経への誘い」拝読９
７月　６日（土）	写経会
８月	休講
９月 14 日（土）	勉強会「法華経への誘い」拝読 10
10月 12 日（土）	課外活動ウォーク（予定）
11月　９日（土）	勉強会「法華経への誘い」拝読 11
12月　７日（土）	二千遍唱題会・勉強会「法華経への誘い」拝読 12

予告
第14回 竹灯籠能・落語会

日程：令和６年 10 月 27 日（日）
13:00 ～
会場：妙壽寺本堂
能（題目未定）▶浅見慈一
落　語▶春風亭一之輔

予告
躑躅（つつじ）観賞会

４月 20日(土)
21日(日)


④

⑤

②

①

③

インタビュー

梅原正隆上人

（逗子妙法精神教会担任・当山職員）

聞き手　三吉廣明上人

令和6年1月7日　於　妙壽寺　東祥苑持仏の間

師父と横須賀妙法精神教会

住職　お上人、こんにちは。今日はお時間をいただいてありがとうございます。

梅原正隆上人（以下、敬称略）　こちらこそよろしくお願いいたします。

住職　お上人は、お年柄により妙壽寺の寺務的なことは一応この1月でご勇退ということになりますが、本日は、お上人がお考えになっているお題目信仰などを伺いたいと思います。お上人には、「テラス」53号（令和5年6月1日発行）に「師父のこと」とリレーコラムを書いていただきました。これに関連して多々お話が出てくるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

昨年11月3日に、おかげさまで本堂落慶40周年を迎えました。今から40年前の落慶式のときに、私はこのお寺にご縁のある方々に来ていただこうと思い、お上人のお父様である法順上人をお招きしました。同上人は、多くの方々を教化された横須賀妙法精神教会の楠山妙道尼上人のお弟子ということになりますね。

梅原　はい。

住職　その楠山妙道尼が当山先々代日照上人のお弟子です。お父様は茨城県波崎町に生まれ、得度が19歳の昭和4年です。茨城から出てきてもういきなり妙法精神教会のお弟子になられたのですか。また、どういうご縁だったのですか。

梅原　最初は千葉の銚子にある銚子妙法精神教会に出入りしていました。師父の1つ上の兄が亡くなって、それを何とかしたいということで信心の道に入りました。

住職　なぜ楠山さんのところに行かれたのですか。

梅原　それは、楠山さんとは同郷で、同じ波崎町に住んでいました。信仰されている方なので、その縁です。それならばと銚子妙法精神教会で修行にとなりました。

住職　今は、銚子妙法精神教会はないですね。

梅原　もうなくなりました。

住職　ということは、これは宗門の歴史としても大事なことで、まず妙法精神教会の発足の経緯というのは何かということを私はずっと思っているわけです。銚子妙法精神教会はどこかから教化されて銚子に来たのでしょうか。それとも、銚子がスタートなのですか。

梅原　そこは分からないですね、どちらかは。横須賀が先か銚子が先か、ちょっと分からない。そんなに差はないと思いますよ。

梅原正隆上人

住職　「妙法精神」というのはどのように命名され、どういう発端だったかというのも分からないですね。

梅原　分からないです。それが横須賀にもまた別の名前の教会もあったようです。

住職　お父様は、銚子の妙法精神教会にまずご縁があって修行していた。それで現在は、お上人は逗子にいらっしゃる。どういうご縁があって逗子に行ったのでしょう。ところで、お父様は戦争に出征されましたか。

梅原　当時は銚子から横須賀のほうで修行していました。出征の通知があって身体検査で甲種合格でしたが、それが難航したようで、出征しませんでした。

住職　得度を受けたのは、昭和4年ですね。その後、楠山妙道尼上人の下で修行、昭和7年に22歳で八大龍王神を感得し、その2年後だから昭和9年に楠山妙道尼上人のお弟子になられた。

梅原　横須賀逸見の横須賀妙法精神教会です。

住職　その後、荒行中に鬼子母神さんをご自分で彫られて勧請。そして、本門法華宗の担任資格証明書を取得された。

梅原　その後の生活も厳しいものですから、出征して帰ってきたら楠山妙道先生が、ちょうど金沢八景に海軍工廠があるので、「そこへすぐに働きに行きなさい。そうでないと、また赤紙が来るから」と楠山妙道先生が言ってくれたそうです。それで働きに行きそのまま終戦を迎え、その後東急車輛製造となりずっと守衛として勤めていました。1日置きぐらいに休めて、帰ってきては布教活動する、結局食べるためにはそういうことをしていたんですね。

住職　なるほど。

梅原　楠山妙道先生の働きに行けという指示がなければ、どうなったか分からなかったですね。

仏門への道

住職　さて、鵠沼の晴明庵の安田顕實さんが言えば奇態な話だなという事になるんですけど、私はお母様に何度かお会いしているから、お上人がお母様に手を引かれて戦争中、空襲の逗子駅の辺りの裏側を逃げているときに、出征した安田さんが小坪……。

梅原　披露山。

住職　披露山で穴を掘っていたと。防空壕ですか。高射砲陣地。三ヶ所の砲台がある場所の下に兵舎があって、その近くに弾薬庫があって、そこで軍隊活動をされていたんです。だけど、それは安田さんも遅いほうの出征だったそうですよ。あまり長くなかったようです。

住職　そこにお二人がいたというのは、私は本当に不思議な感じがするわけです。

梅原　安田さんは逗子海岸で、蛸壺を掘って防空壕に潜って練習をやっていたと言っていました。

住職　私の中学校、高校がその海岸のそばだから。同じ海岸で、片や掘っている人。お上人は私にとって立正大学の先輩です。立正大学に何年に入られたんですか。

梅原　昭和37年卒だから34年ですね。

住職　当時はアルバイトをされていたんですか。

梅原　はい。この仕事に関係しますが、私は、結局駅からも学校からも近いというところで、これも安田さんにまた関係があるんですけど、品川駅と五反田駅に通じる中間に日本気化器製作所という会社がありました。そこは、戦時中は飛行機のエンジンの気化器を製造していました。終戦になり製品転換するということで、飛行機から自動車のエンジンに使用する気化器を製造することになりました。私がアルバイトをしていた34年ぐらいに自動車産業がうなぎ登りの成長期でした。ほぼ3年いました。

全く仏教に関係ないことですが、各部署でいろんなことを教わって、多くの経験をしました。大学では教員免許を取得しました。当時の小学校は就職口がありましたが、中学校を希望していたので、教員にならないでいました。

住職　大学を終えられてすぐ就職されたんですか。

梅原　そのまま同じ会社に就職しました。成長する企業だからと思って…。30年ぐらい勤めましたが、最後の10年は、会社が移転した厚木に通いました。

住職　遠かったでしょう。

梅原　大変ですよ。4時半には起きなきゃいけないから。また移転前の品川工場の前に、ソニーが工場ビルを建設中に安田さんが一時鉄筋工として働いていたと話した事がありました。そう言われてみれば、ご納骨の時に骨壺を銅線で十文字に縛る手際の良さに感心したものでした。

住職　そんなご縁が、安田さんとはあったわけですね。お上人が永年勤続で真面目に通われたというのはよく分かりました。その会社を定年60歳まで勤めたということですね。

梅原　65歳まではと思いましたが、師父が1年前に亡くなったので退職しました。

妙壽寺に入寺して

住職　定年退職されて、私がこれから妙壽寺に来ませんかとお願いしたのはその頃でしたね。

梅原　平成12年3月のお彼岸前後です。安田さんと一緒に妙壽寺にご奉仕しました。

住職　お上人が妙壽寺に来ていただいて、結構日頃のいろいろな寺務のことお願いしました。安田さんの話をしたいのですが、最初に会ったとき、お上人は安田さんのことをどう思われましたか。明るく元気だと思ったのでしょうか。

梅原　普通に感じましたね。感心したのは、私は十二、三年間車で通勤（往復3時間）していましたが、同乗していた安田さんは車の中で居眠りしたとか、トイレに行きたいということは、1回か2回ぐらいですよ。あとは遅刻もなかったです。

住職　安田さんが晴明庵をずっとお守りしてくれていて、木曜日が土日の法要の2日、3日前だから、その準備のためいつも2人で来ていただきました。今ほどお葬儀の喪主の名前が喪主と替わるとかはなかったので、そういう意味ではのどかなときだったと思います。2人でお塔婆を書き、法要の準備をしていただくという期間がありましたね。

そのときに忘れられないエピソードは、お上人が逗子から車を運転して、鵠沼の晴明庵で安田さんを拾って妙壽寺に来ますが、電話を3回鳴らす合図をして、安田さんがいそいそと晴明庵の外に出てお上人の車に乗って来る、もう何かほほえましいエピソードだなと。

梅原　当時、まだ携帯はなかったです。電話口で待っていてくれたそうですよ。

住職　その安田さんや園田師が手伝ってくれたりしている中で、妙壽寺の仕事はお上人にとって檀家さんと直接関わるお仕事だったと思いますが、いろいろな仕事を覚えなければいけない部分もあったでしょうし、その場の判断をしなければならないこともあったと思いますが。

梅原　やはり当時というのは、檀家さんのほとんどが亡くなってもすぐ親から子ということで、世帯がそんな変わることはなかったですね。それから、当時まだ新規入檀の方も少なかった、今と比べれば。まだ入檀者さんはいなかったのではないでしょうか。だから、その点では仕事量としてはそんなに、頻繁に替わるということはなかったと思いますよ。正隆廟ができてからずっと忙しくなって、世代交代で変わり出したというのはもう時代の流れだと思いますね。

寺務管理の合理化

住職　ともかく、やはりお寺の業務内容は、たくさんありますね。

梅原　だんだん増えてきましたね。

住職　入檀の手続から、転宅という家が変わったとき、登録のご本人が亡くなられたこと、継承者の引継ぎ、それを過去帳に入れていくこと、ともかくそういう代替わりに関することもたくさんあるし、新しく入ってきた方の手続きもある。それから、墓地に関することがたくさんありますね。今から20年ぐらい前には正隆廟ができて、永代供養墓もお上人に全部お願いを初期からしている。また、お寺にとって年間で一番大きなイベントのお盆棚経があって、廻っていただく若いご僧侶方への寺務的な事前の準備もある。年末には、お札を中心とした年始の発送物の準備もある。やはりお寺は、季節行事の節目というのが大事なことなので、その辺のところですね。

梅原　確かに私がお世話になった当時から比べると、大分仕事量がいろいろ増えましたが、コンピュータを導入してから寺務管理が向上していますね。

住職　私の目標としては、最終的に電子的な処理をするのと、全お檀家の過去帳も電子整理につないでいきたいということです。お寺に来れば何代か分かる。東京の場合は江戸時代もたくさん火事があって、近現代になれば関東大震災と空襲があった。そのため過去帳が散逸しているということはありますが、妙壽寺の場合は、幸い空襲にあわなかった。お弟子さんが関東大震災後に聞き取り調査をしたものが残っていますので、それをどのような形で残していくかが大事でないかと思います。

お上人がこの25年間、お上人が紡いでいただいたものは、尊い妙壽寺の歴史は保たれたと思っております。その辺のところをどう思われますか。

梅原　いずれにしても、これから寺務の合理化という意味では、ますますいろいろなことをもっと進めていくと思います。大きな問題はそういうことだと思いますよ。要するに、誰が見ても分かるようにしておかないといけない。それが一番です。

住職　そうなんです。みんなが分かるようにしなければ…。

梅原　そう。標準化しておかないと駄目なんです。

懇親の場〝正隆会ウオーク〟を担当して

住職　寺務的なこともありますが、やはり檀家さんと、難しい教えを説くということもありますが、お寺という広場の集いとかということもあります。日照上人が築いた正隆会を再開して、その中で、住職の話はあまり面白くないけども、ウオークは参加しようという人が結構いて、お上人が関わってくれた当時は本当に平均四、五十人いましたよね。

梅原　そうですね。ウオークで、私が一番印象にあるのは、私が入寺して4年後でした。鎌倉ウオークで50人近く参加しました。それは平成16年と17年で2回続けて行い、多くのお檀家さんが集まってくれたことは一番印象に残っていますね。

住職　この頃はウオークの実施はだんだん難しくなっているなと実感しますが、30年前はみんな元気でしたね。ある意味では、あの時期にやってよかったなと言えます。

梅原　本当に。東京から鎌倉まで電車で四、五十分乗ってきて、それからまた5キロぐらい平気で歩いていたんですからね。

住職　いろいろなところへ行きましたね。最初は、今妙壽寺の猿江別院になっているお稲荷さんへ行き周辺を歩いたり、百花園へも、スカイツリーができたときも行きました。

梅原　平成31年3月が護国寺で、その年の10月に佐倉、そこで終わりですよ、今のところ。コロナ禍でもう4年ぐらい行っていない。

住職　お上人に対しありがたかったのは、ともかく毎回下見をしていただいたことです。あの当時みんなお元気でしたから、毎回職員二、四人で下見をしていましたね。

梅原　必ず下見をしていましたよ。

住職　多いときは年3回ぐらいありましたね。

梅原　そんなことで、やっぱり年とともに、なかなか遠くへはちょっと尻込みする方がいらっしゃるけども、この正隆会というのは、形を変えても皆さんが集う唯一の場ですから。

住職　そうですね。気軽に我々と懇親できる機会だと思います。

節分法要（梅原上人前列右端。令和4年2月3日）

僧階「僧都」を任命される
（法華宗宗務院にて。令和5年4月９日）

正隆会小江戸川越ウオーク（平成24年5月12日）

お題目信仰の尊さ

住職　お上人にいろいろ伺ってきましたが、私がお上人を頼みとしているのは、私が思うにはやはりお題目の信仰です。お曼荼羅の中にある諸天善神がたくさんあられて、最近、我々が学林へ入る前後の頃は、先輩方から順序・次第、平等の上の差別とか、そういう言葉がありました。順序・次第と考えたときに、西洋の宗教ではイエスかノーか、0か100かみたいなところで全部否定してしまう。けれどお題目は、お曼荼羅の中にいろいろな諸天善神がおいでになって、その方々も法華経の光に照らされて成仏の道を歩めるということがやはり尊い。コラムにもありますが、お上人のお父様が水神様、八大龍王、龍王様を守護神として感得されたことは、お上人はその辺をどのように思っておられますか。

梅原　これは、なかなか自行しないと現れない。私の母の守護神は七面大明神なんですよ。師父にはあまり聞かなかったけど、母に聞いて、やっぱりお題目を、これは横須賀妙法精神教会、そこで1日2時間、3時間唱えなければいけないと。すると、1か月から3か月の間には必ず分かるそうですよ。母親が言うには、とにかくお題目1本、お経をあげると全部ほかの霊が訪ねてきて、供養してほしいものだから聞きに来る。すると、自然に、向こうから人が出てくると言うんですよね。

住職　やはりお題目の尊さと目に見えない、尊さはありますよね。

梅原　私は、家の南方向のパラボラアンテナを取り換えるときにも、ちょうどその方位に金神様がいたんです。私は、許しを乞うためお経をあげて、何か気持ちが収まった。そうしたら、頭のてっぺんから喉を通り下へと抜けました。微量の電気で感電した感じでした。そして取付工事ができました。普通だったらお経をあげたらお塩をまいてお酒をあげてすぐにアンテナの取付工事をしますが、そういう気にならなかったです。

住職　金神様ですね。

梅原　金神様がそこにいらっしゃる。その方位の場所を侵すと方罪になり怒られるから、それをよけるためにお経をあげました。そうしたら、初めての経験ですけど、本当に頭、喉、下半身へと微電流が流れました。こういうことかと思って、やっぱり目に見えないけど、確かにお題目の力は必要だと思いました。

住職　また晴明庵をぜひこれからもご守護いただきたいと思っております。本日は、ありがとうございました。

梅原　ありがとうございました。（了）